

KSTNET WEB版 2004年5月号

1.第6回熊本県言語聴覚士会総会報告

去る5月22日（土）、今年も熊本交通センターホテルで総会が開催されました。たくさんの議案が提出され、今年度の活動方針等が無事決定しました。皆様のご協力に感謝申し上げます。

参加者：72名（委任状50名）

県士会会員数：147名（参加者数、委任状数が過半数を超え、本総会は開催されました。）

決定・承認事項：

平成15年度決算報告に関する件

議案書に記載されている決算報告は監査の結果、相違ないことが承認されました。

組織（部局等）の見直しに関する件

今年度より、学術研修部が新たに設置されることが承認されました。また、組織図のとおり、各小委員会が再編、統合されました。

平成16年度活動方針案に関する件

議案書に記載されている活動方針案通り承認されました。

平成16年度予算案に関する件

議案書に記載されている予算案に加え、熊本県言語聴覚士会のユニフォーム費が本年度の予算案として承認されました。

その他：

訂正

平成16年度定期総会議案書の訂正

- ・「（2）組織（部局等）の見直しに関する件」の項目において、保険部の委員が記載されておりませんでした。誠に申し訳ありません。

部長：坂野（回生会） 委員：児玉（湯ノ児）、鋤田（回生会）、大津（回生会）

平成16年度熊本県言語聴覚士会 会員名簿

- ・陳内 千恵子先生の施設名が熊本市立出水小学校と記載されていましたが、「熊本市立慶徳小学校」の誤りです。

連絡

- ・江津湖療育園より、「福祉機器展」が6月5・6日開催と報告がありました。
- ・事業部より、「第5回 失語症のつどい」の開催日が10月31日(日)午後になったと報告がありました。

2.各ブロック活動報告

[東部]

昨年2月初旬、第1回目の東部ブロック懇親会がくまもと成人病院横『ぶぶたん』にて開か

れました。参加人数は11名と少なかったのですが、食事や会話を楽しみながらブロックの今後の予定について話し合いました。話し合いの結果、「今年はブロック会もスタートしたばかり。肩を張らず気軽に相談や意見が言えるようなST同士の関係づくりから始めていきましよう！」ということに意見が一致しました。東部は他のブロックに比べスローペースですがのんびりゆっくりと活動していきます。平成16年度は年に2回（夏・8月と冬・12月）の全体集会を予定しています。少しずつ小児や成人の枠を超えて意見交換ができる場になればと思います。

[西部]

[中部]

4月28日(水)、熊本託麻◆台病院にて、平成16年度 第1回中部ブロック会が行われました。14名の方が集まり、①中部ブロック各施設の紹介（参考資料：資質向上委員会アンケート結果、日吉小学校H16年度言語障害通級指導教室運営案など）②勉強会（診療報酬改定、誤嚥性肺炎）を行いました。

各施設の紹介では、STの紹介、関連活動、対象などを紹介していただきました。また、日吉小学校からは今年度の言語障害通級指導教室運営案を送っていただき、教室の概要、対象、指導方針、活動計画などを理解することができました。各施設の特色がわかり、今まで以上の連携がとれるように努めていきたいと感じました。勉強会においては、誤嚥性肺炎について文献を抄読し、あらためて、口腔ケアの重要性を感じたり、肺炎が治まったあとの、薬物、リハビリテーションのあり方について、新たな知見を得ることができました。また、診療報酬についても質問ができました。「14人寄れば文殊の知恵」でした。経験のあるかたからも、県外に友達のいるかたからも、養成校で学んだばかりの方からも有益な情報が出され、診療報酬の解釈がすすみ、対策をたてることができました。

次回の中部ブロック会は平成16年7月16日(金)19:00より江南病院5階講義室にて、症例検討会及び施設紹介(施設見学)を予定しています。

[南部]

南部ブロック勉強会では、今年就職をした大津STが失語症者の処方を受け評価・訓練の一連の流れについての1例を、2年目の鋤田STがVF検査を導入し開始に至るまでの取り組みについて発表があった。

大津STの発表では患者様の気持ちを尊重した評価・訓練についてであったが、患者様の言語能力を最大限に見つける評価・訓練、軽度の失語症に対してのアプローチや退院後のフォロー、本人・家族への説明の方法などたくさんの意見、アドバイス等が出された。

熊本回生会病院ではVF導入から開始まで3ヶ月の時間がかかり苦悩する点多かったようだ。その3ヶ月間にスポットを当て、作成した報告書などを用いながら手順など話された。VF検査については、それぞれの施設でも悩んでいる点が多く、中でも被曝についての意識や対策法は各施設様々で、活発な意見交換となった。

[北部]

3.ボバース概念勉強会からのお知らせ

ボバース概念は神経生理学や認知心理学を基盤に開発されてきた中枢神経疾患に対する包括

的なアプローチ法の一つで、従来は主にPTやOTによって用いられてきました。運動障害性構音障害や摂食嚥下障害、さらに近年は高次脳機能障害に対してもその有効性が確認されるようになり、徐々にSTによっても取り組まれるようになりつつありますが、患者を直接操作（ハンドリング）する実技が中心となるために、文献上だけで勉強することは難しく、STにとっては勉強する機会に乏しいのが現状です。

そこで、この分野に興味のあるSTの先生方と一緒に、ボバース概念の理論と基本的なハンドリング技術を勉強する会を定期的に催したいと思います。構音障害の訓練って何をやっていいのかわからないとお悩みの方、学校で習ったブローイングや口の体操、pushing exerciseではよくならなかったという経験をされた方、患者さんの体に触るのがこわいとお感じの方、一緒に勉強しませんか。

第1回の勉強会は下記の要領で開催いたしますので、参加をご希望の方は、青照館橋本までご連絡ください。

日 時：7月31日（土） 午後2時30分～5時30分

場 所：メディカル・カレッジ青照館（三角線波多浦駅下車徒歩3分、駐車場使用可）

費 用：資料配布時のみ実費

連絡先：橋本 武樹（メディカル・カレッジ青照館言語聴覚療法学科 ボバース概念成人片麻痺上級講習会終了）

Tel：0964-54-2211 Fax：0964-54-2213

e-mail：hashimoto@seishoukan.ac.jp